

福祉新聞 2009 年（平成 21 年）4 月 20 日

< 産業別の月給「医療・福祉」低水準 >

**厚労省 2008 年調査 平均と 2 万 5,200 円の差**

厚生労働省がこのほど発表した「2008 年賃金構造基本統計調査結果の概況」で、「医療・福祉」産業で働く常用労働者の平均月額賃金が、全産業平均より 2 万 5,200 円低いことが分かった。

調査は雇用形態や職種別賃金の実態などを明らかにするため毎年行っているもので、概況は、10 人以上の常用労働者を雇用する 4 万 5010 事業所の 2008 年 6 月分の賃金の状況などをまとめた。

日本標準産業分類に基づく 14 大産業の平均月額賃金（非正規含む）は 29 万 9,100 円、「医療・福祉」は 14 大産業中 2 番目に低い 27 万 3,900 円。最も高いのは「電機・ガス・熱供給・水道業」の 39 万 8,700 円、最も低いのは「飲食店・宿泊業」の 24 万 4,600 円だった。

男性の平均賃金は「全産業」（平均 41・7 歳、勤続 13・1 年）が 33 万 3,700 円、「福祉・医療」（同 39・1 歳、8・3 年）が 36 万 1,000 円。女性の平均賃金は「全産業」（同 39・1 歳、8・6 年）が 22 万 6,100 円、「福祉・医療」（同 38・9 歳、7・6 年）が 24 万 3,900 円。「医療・福祉」の平均賃金は、男女とも「全産業」を上回ったが、女性職員の比率が高いため、合計では「全産業」を下回った。

常用労働者のうち正社員・職員の平均賃金は「全産業」が 31 万 6,500 円（男性 34 万 5,300 円、女性 24 万 3,900 円）、「医療・福祉」が 28 万 6,300 円（男性 37 万 6,000 円、女性 25 万 4,000 円）。前年からの伸びは「全産業」が 0・5% 減（男性 0・6% 減、女性 0・2% 増）、「医療・福祉」が 2% 増（男性 2・3% 増、女性 1% 増）だった。

一方、非正規社員・職員の平均賃金は「全産業」が 19 万 4,800 円（男性 22 万 4,000 円、女性 17 万 500 円）、「医療・福祉」が 18 万 2,500 円（男性 20 万 9,700 円、女性 17 万 5,900 円）。「医療・福祉」の平均賃金は、合計・男性で「全産業」を下回った。